

## ハイブリッド保育

### ～9割のアナログ保育と1割のデジタル保育～

鹿児島県鹿屋市 認定こども園 つるみね保育園 園長 杉本正和

豊かな自然環境だけが特色だった過疎化高齢化少子化地域の小さな保育園だが、わずか1台のiPadを保育に活用を始めたことで、アナログ保育とデジタル保育のカリキュラムを構想し、バランスよいハイブリッドな保育が実践できるようになった。

好奇心探求心旺盛な幼児期だからこそ！利便性の悪い地域だからこそ！よりよい科学の研究とデジタル活用が不可欠な時代が待ち受けているからこそ！保育や教育の分野でもイノベーション精神を発揮し、伝統を守りながらも先進的な視点で、実践的な研究を続ける必要があると感じている。

#### 1. アナログ保育

泥にまみれ汗にまみれ自然を生かした保育に加え、毎朝の音楽遊び、毎週の科学遊びを継続している。



(全職員、ギター・アコーディオンを演奏できる)



(100を超える実験で科学の楽しさを伝える。)

\*今回の資料はデジタル保育の紹介を主としている。

#### 2. デジタル保育 5つの特色

デジタル保育は、5つの特色に分類。各担当者が1回15分で1ヶ月に3～5回実践するだけで、経費をかけず、年間200ほどの事例を各年齢に応じて積み重ね、さまざまな成果をあげている。

##### (1) グローバル・コミュニケーションを楽しむ

GoogleEarth、テレビ電話などを活用し海外との交流を、年間10回以上重ね、視野を広げている。毎週2回のオンライン英会話も大きな成果を上げている。(ホームページ等の動画で御検証を)



海外だけでなく県外の園児と交流し、質問やジャンケンを楽しんでいる。山形県からはスキー保育を中継してもらい驚いたが、当園の雪のない園庭に驚く相手の姿に、双方の好奇心が広がったと感じた。



##### (2) 正しい知識を深める

主に健康衛生面で活用。食育では毎月1回、県外や海外の郷土料理から、食材に注目、給食担当者が10分で実践している。園児との交流で、職務のモチベーション向上にもつながっている。

衛生指導もデジタル活用で、確実に正しい知識が身につく、普段の生活で大いに生かされている。



##### (3) 表現力・思考力・発表力を高める

もっとも紹介したい特色である。保護者から届いた写真を使って、発表や質疑応答を楽しむ時間で、プレゼンタイムと名付けている。大きな声で堂々と発表、身振りや手の動きまで工夫した表現力、そして、しっかり聞いて質問や感想を発表する園児の姿は多くの方々から高い評価をいただいている。



#### (4) 道徳心・社会性を育てる

心に届けたいニュースなどがあつた際、大きな画像を活用することで理解が深まっている。また、出張先から、テレビ電話で、いろんな様子を紹介することで社会性の育ちにもつなげている。



#### (5) 先進性・創造性を楽しむ

もともと、実践しやすいのが、アプリを利用する方法であり、他の施設での活用のほとんどが、複数のタブレットで個々に楽しむ方法である。しかし、当園のように「みんなで1台」しかない活用方法でも、みんなの笑顔と歓声が広がり、リテラシーやスキルを伸ばすことができる。



### 3. 実践の成果

#### (1) 発表力・表現力の飛躍的な向上

4・5歳児のプレゼンテーションへの意欲と表現力の向上は、驚くほどの成果が見られる。発表はもちろんであるが、質疑や感想まで大きな声での応答が続き、最後は大きな拍手を送り称賛する。友だち同士で認め認められる体験によりコミュニケーションが深まっている。また家庭から届く多くの写真は保育園との連携にもつながっている。

#### (2) 保育の質の向上・職務の効率化が進む

園庭での活動は気象条件での制約を受けるが、デジタル保育という選択肢があるだけで、保育の幅も笑顔の幅も大きく広がる。職員も積極的に、さまざまなデジタル活用を学び、保育の質が大きく向上している。さらに、職務の効率化や共通理解をはかる活用も驚愕していただける実績を重ねている。

#### (3) 創造力・理解力が向上

よりよいアプリ活用で、言葉・数・絵・音など、これまで未知だった学びが、楽しく実施できるようになり、さまざまな領域に興味関心を持つようになっている。また、動画活用は、踊りや運動などの技術の習得に効果抜群である。

#### (4) 好奇心探求心の向上、保護者の理解

豊かな自然を生かしたアナログ保育と先駆的なデジタル保育で、園児の好奇心探求心が大きく育っており、保護者の理解が得られていると感じている。特に英会話で質疑応答を楽しむ姿には驚きと称賛の声が上がっている。

#### (5) コミュニケーションの深まり

海外や県外の人とのコミュニケーションだけではない。病気で長期休みの友だちの自宅と中継しての交流、インフルエンザで卒園式を欠席した卒園児が自宅から将来の夢を発表、参加者が大きな拍手で祝福するなど、デジタル活用の工夫により、ICTのCの意味するところのコミュニケーションに、これまで以上の深まりが生まれるようになっている。



### 4. 課題

公立小学校や他の幼児施設との連携が課題であるが、時代の流れとともにICTの研究に関心も高まっており、関係者の来園視察や学校関係の研究会で発表できる機会も増えている。5つの特色の実践事例を紹介し、デジタル活用のさまざまな可能性を伝えていきたい。

幼児期のデジタル活用は、これから、さまざまな論議がなされていくだろうが、実践なくして課題解決の検証はできない。よりよい活用方法を創造することが必要な時代であり、そのひとつの事例として、当園の保育実践は、スマホ守りなどとは大きく異なるということを示していきたい。幸い、多くの研究者や企業との連携が深まっており、今後も、PDCAより、「DCAP」という共通理解で、全職員で実践第一の取り組みを継続して、未来へ目を向けた研究の進化&深化を図っていきたい。

### 5. 想い・願い

「小学生になった子どもたちの成果は？」と質問されることがあるが、私は、「小学校での成果を期待しているわけではない。いろんな分野で好奇心探求心を育てることが、30年後の生きる力につながるはずである！」と伝えている。デジタルの進化で、利便性の悪い地域でも、都会にも負けないスピード感で学べる時代であり、今後も、アナログとデジタルが融合する、ハイブリッドな保育実践を重ねる覚悟である！

